

♪プチ・マルカート「5周年記念 プチ・コンサート」ぶらり訪問記♪

2018年11月17日(土)14:00 開演 ホームギャラリー ステッチ(立川市)

秋深まる玉川上水の遊歩道、サクサクと落ち葉を踏みしめる音が快いです。そこは閑静な住宅街の中にあるおしゃれな白い建物で、敷地内には可愛いカフェもあります。5・60 人も入れば満席のこじんまりとしたホールですが、グランドピアノも備えられています。小さいお子さんから、ご年配の方、そして関東アコでもお目にかかる方もいらして、開演前にはほぼ満席で立ち見もでていました。

手作り感漂うプログラムを開くとグループ紹介が…「ミュゼット、タンゴ、ジャズ、クラシック、ジャンルを問わず、メンバーが好きな曲を練習し、施設や市民祭りで演奏しています」と、聴くところによると、結成当時は 3 人だったそうです。現在は女性 4 人で楽しく活動しているとのこと。

プログラムは二部構成とゲスト演奏です。オープニング曲「ニューシネマパラダイス」の美しいメロディーが響いてきました。第 30 回関東アコのバンド/アンサンブルの部で第 3 位入賞した曲です。演奏者の運指や息づかいまで分かる最前列に座りました。丁寧で滑らかな出だしに一曲目から期待感がふくらんできます。

前半は「ムーンリバー」「A 列車でいこう」「私の青空」「ロンドンデリーの歌」「アマポーラ」「孤独の歲月」「リベルタンゴ」とバラエティーに富んだ曲の数々。少し緊張気味と見受けられた表情も徐々にほぐれ、ジャズ、ポップス…と乗ってきました。

実力者ぞろいのメンバー(関東ア

コ独奏部門上位入賞の常連さん)ですから、独奏もあるのかと実は思っていました。しかし、良い意味で期待は裏切られたのです。信頼し合える仲間と好きな曲を選び楽しい練習の中で、素敵な音を創り出す。「ニューシネマ〜」から「リベルタンゴ」まで聴かせて頂き、互いを尊重する演奏スタイルが伝わってきて、とても心地よかったからです。

休憩時間にはロビーで飲み物とクッキーがふるまわれました。コーヒー、紅茶は飲み放題？作業所製造のクッキーも一人一袋とごそうになり、身も心も温まる心遣いに、ロビーは笑顔であふれていました。また、ホールでは、ギター演奏が静かに流れています。友情出演兼裏方でも活躍されていた方が奏でる音色も優しかったです。

さて、後半は待ってました！「カルメン幻想曲」第7回 JAA 国際アコーディオンコンクールで審査員賞(安保賞)を受賞したエンターテイメント溢れる曲で幕開けです。メンバーはカルメン、ドン・ホセ、エスカミーリョ…と役に扮した衣装で登場。フリフリスカートのカルメンさんはなかなかの芸達者、チョビひげさんは情熱的にアコを奏で、マタドールさんはタンバリンでリズムを刻み、話を進めます。巧みな演奏を



腹抱え笑って聴くという、何ともミスマッチな快感を文字では伝えきれません。(写真は「カルメン幻想曲」を終わって会場の拍手に応える演奏者の様子)

この演出、どなたが考えたのでしょうか？成りきりを楽しみ舞台上上がっている姿、羨ましくもありました。後半の二重奏「サンジャンの私の恋人」「パリのお嬢さん」は軽く爽やかな演奏でした。「カルメン～」との対比は効果的な印象を与え、曲への入り方、切り替え方も抜群です。

ゲスト演奏はシャンソン歌手の秋山美保さん。老舗シャンソニエでステージに立たれています。伴奏のアコーディオンと息が合い、「パリ祭」「ボルプタ」「パリの空の下」の3曲を歌われました。物語を語るような歌い方とアコの音色が気持ちよく同調し、味わい深かったです。

この「プチ・コンサート」演奏(アコ・ピアノ・ピアノカ・パーカッション等)に加え司会、進行、演技？等自前でこなすエネルギーと企画力。ホールは正にプチ(フランス語で小さな)ですが、中身は間違いなく「グラン・コンサート」でしたね。

次回は？の質問に今年御年ウン歳になれるカルメン役のKさんは「米寿のお祝いコン

サートかな」と茶目っ気まじえて言われました。「エッ！そんなお歳なの」と驚くと同時に、リスペクトです。

何年後なのかは分かりませんが、またおじゃましたいと思っています。理由は3つ。まず、曲に向かう心持と音の創り方には、*p.*や*f.*休符、そしてグループ名にもある「マルカート」、色々な要素があるのを改めて学ばせてもらったこと。

2番目は前述通り、お互いを尊重すること、人に聴かせようとするのではなく自分たちが楽しむこと、この当たり前のことが演奏から伝わってきたからです。

3番目は何といっても楽しかったし、4人のお人柄が伺える音に心が和んだからです。

プチマルさんありがとう！

(岡田)



写真:(2枚とも):主催者より提供



行ってきました！

創立半世紀 そして未来へ

中部アコーディオンクラブ創立50周年記念コンサート

名古屋を拠点として活動しているCAC中部アコーディオンクラブが創立50周年を迎えた。その記念コンサートが2018年12月16日名古屋市内の今池ガスホールで開催された。

CACは大阪で開催している“ビバ・アコーディオンふれあいこんさあと”には毎年参加し、2006年、2017年には関東アコ演奏交流会にゲスト出演。互いに交流が深まってきている。

半世紀にわたるアコーディオンを愛する人の集団はどのように発展してきたのだろうか。

高齢化で頭をかかえることが多い昨今、CACは若い人が多い。熟年も胸を張って自身の音楽を楽しみつつ、後輩を育てている。ひとりひとり個性豊かでアコーディオンを楽しんでいる大きなファミリーという印象を受ける。前会長の牧野さんは「うちは“なんでもあり”なの」と音楽の受け入れの幅広さを語る。毎月1回の例会では個人レッスンや合同練習を外から講師を頼まずCACの会員が教えている。練習だけでなく運営も皆で話し合う。練習後の飲み会にも熱が入るとか（笑）。例会の日を心待ちにして日々研鑽を積んでいる会員の姿が想像できる。

記念コンサートのプログラムも“なんでもあり”が反映されていた。

全員合奏から始まり、お得意アニメの男性4人ユニットから若い女性の華麗な二重奏、熟年による演奏を芝居仕立てにお客さんを和ませるショー、もう少し若手の歌謡ショーグループは昭和の流行歌のメ

ドレーだ。ポルカの見事なデュオ、クラシックのアンサンブル、トリのアコーディオン・デュオは椅子も譜面も不要の息があったジャズ。素晴らしい演奏だ。

ゲスト出演はcoba。cobaの生演奏をこんな間近で聴けるなんて！さすがのカリスマ。惹きつけられるステージだ。

最後の演奏は全員合奏で締めくくる。

終演はcoba作曲「過ぎ去りし永遠の日々」。作曲者ご本人も合奏の一員となって演奏している。時折若手のソロに拍手が起こる。副会長の銀羽さんはアコーディオンベースを弾きながら指揮をしている。思いのあふれた音、半世紀積まれたアコーディオンの音が伝わってくる。会場が感動の空間となっていた。素晴らしい。

ご案内いただいた会長の平尾さん、ありがとうございました。中部アコーディオンクラブ創立50周年本当におめでとうございます。未来に向かって益々発展されますように！あらためて乾杯！！

これからも交流をよろしくお願いします。

プログラムの中にCAC会員の素敵なメッセージがありましたのでご紹介します。

写真は主催者より提供頂きました。

2019年1月 実行委員 橋本

CACでは僕より50歳も年上の方が素晴らしい演奏をしているのに感銘を受けました。
僕もあと50年アコを弾いて、CAC100周年コンサートで演奏することが目標になりました。

中部アコーディオンクラブ HP <http://cac-2014.com/>
アコーディオン教室 Bellows の HP <http://bellows-2019.com/>



中部アコの平尾さんが12年間続けてきたご自分のアコーディオン教室をリニューアルしました。講師は平尾ありえさん、銀羽功美男さん。



どっこい継続していた なぎさニュータウン（江戸川区）での歌声喫茶

7年前取材で訪ねたときは「江戸川区ボランティアセンター登録団体ばっは亭」での歌声喫茶でした。その後亭主の健康上の理由から2014年度末の68回をもって閉鎖し、同時に歌集なども配布するなどして処分していたようです。

ところが終了直後に「読む、歌う 童謡・唱歌の歌詞（改訂版）池田小百合編著／夢工房」の歌集20冊を、著者の池田百合子先生から「自由に使って下さい」と寄贈があった事や、ご近所のお年寄りから歌えなくなって寂しいとの声が続いたことなどからともかくこの歌集を使って「童謡・唱歌を歌う会」を不定期ながら開くことにしたのが今の形になっており、ばっは亭から通算するとこの1月で99回を迎えたとのことで再度お邪魔してみました。

訪ねたのは1月30日（午前10:30～12:00）今年初めての会ということで「越天楽」

今様・いろは歌で始まりちょっとびっくり。滑舌がよくなるようにと前半は全

歌詞を読んでから歌います。手作り歌集の他に前出の寄贈された「読む、歌う 童謡・唱歌の歌詞（改訂版）」を使っていて、240曲ほどの全ての歌にとっても丁寧な解説が付けられています。進行は奥様の譜面の差し替え、ページコールでテンポよく進み、二部合唱も含め24曲歌いました。

インフルエンザが猛威をふるっている中、日差しの差し込む明るい会場は40名ほどの元気な歌声であふれていました。

終了後、亭主と会話をした際には『楽器も一回り小ぶりの(Excelsior911)に替えました。以前使っていたExcelsior980は重いのでもう使うことは無いが、誰か若い人使ってくれないかなあ・・・』とのつぶやきがハッキリ聞こえました。（記：乙津）

■次回は3月27日（水）10時半開始
（会費200円）問：（田代）03-3687-4069



♪「70周年記念 日本のうたごえ祭典」全国アコーディオン合同に参加したアコ仲間たち♪

2019年1月19日(土)16:00 開演 川崎市とどろきアリーナ

70周年記念となった2019年度「日本のうたごえ祭典」は東京開催と決まり、8年ぶりとなる全国アコーディオン合同合奏が呼びかけられました。参考になればと記事の最後に「アコーディオン合同合奏の歴史」を載せてみました。

1988年、日本武道館(東京)で開催されたときの「フィンランディア」には過去最高の150人でのアコーディオン合同と記録されています。その後も120人、117人等の記録が残っています。

70周年記念の今回も100名規模での演奏をと、メドレー「愛しき人に」曲は「さくらんぼの実る頃」「インターナショナル」に決まり、昨年の夏から呼びかけが始まりました。柴崎和圭氏の指揮の下、昨年10月7日を第1回に、11月25日、12月9日、12月16日、2019年1月13日と5回の合同練習を通してベースパートのピッチカートのイメージ練習、パーカッションのリズムや他のパートの音を聴く練習、小節の最後の音から次の小節の頭に向かって行くアフタクトの練習、とにかく会場は大きいので、これでもかっていうヴォリュームのある音を出す練習などで徐々に音がつくられていきました。

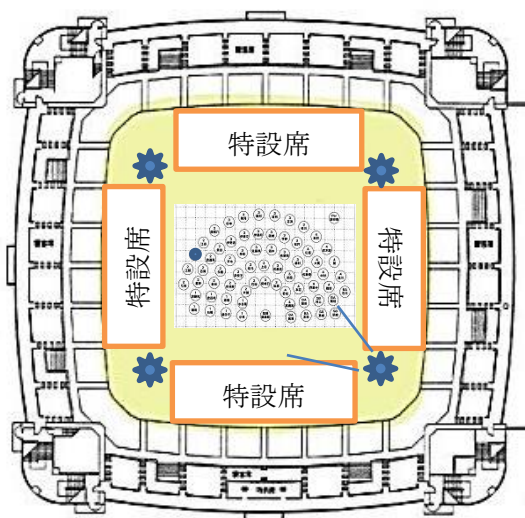
そして当日、午前中サブアリーナで40分の練習後本番に向けて昼食。

プログラムは2部に分かれていて、前半は「～いのちをうたおう～」開演は12:30、私たちの出番は後半「～ころをつなごう～」16:00開演のオープニングでの演奏なので前半のステージをしっかり聴くことができました。中でも Women of the World で歌われたゲストの「Sechaba」(スワヒリ語のチャント)「Kafal Sviri」(ブルガリア民謡)「Rhydhun」(インド)「Sakura」(日本民謡)「ジェリコの戦い」(黒人霊歌)、メンバーは「インド、イタリア、日本、ハイチ／アメリカから集まった女性シンガーからなる国際的なボーカルグループ。繊細かつダイナミックなハーモニーに定評があり、2014年度全米アカペラチャンピオン、そして観客賞

のダブル受賞という快挙を成し遂げる。」(「」内プログラムより一部転記)で、マイクを使っていたとはいえ、あの魂をぶつけるような歌唱にハッとさせられ、そうか、後半のオープニングで演奏する私たちも彼女たちのように本気になって訴える音を出さないと客席には伝わらないんじゃないかと気持ちが引き締まりました。

後半が始まるまでの幕間にステージでの位置確認が行われ、楽器、譜面台をステージに残し舞台横で待機します。

いよいよ後半の開演です。村上信夫氏(元NH



Kエグゼクティブアナウンサー)と入田直子氏、(元NHKリポーター)の二人の司会で始まりました。メインアリーナは図のようなすり鉢状で、中央にほぼ正方形の段差のないステージがつくられていて、360度、四方から鑑賞できます。また天上中央には大型ビジョンが吊り下げられ4面を囲んでいるのでどこからでもアップできれいな映像で楽しめます。

さて本番、総勢70名の参加で、私の演奏位置は図の後列左から3番目(黒丸)でした。前方左手からのライトが目に入り指揮者の位置が真っ白く光り顔は見えませんでした。他の参加者は不自由はなかったのでしょうかね。どうにか腕の動きは

捉えられたのとパーカッションのリズムはしっかり聞こえていたので助かりました。

前半が「さくらんぼの実る頃」で前奏は三拍子、1パートがフェルマータ記号の付いた3拍目から入り8小節弾きます。3拍目から入るこの最初の音はとても大事な音なので自信を持ってしっかり出して欲しいと練習の場で繰り返していた効果だと思われるけど最初の音がしっかり聞こえたので安心して自分のパートの出番を待つことができました。前奏が終わると四分の四拍子に変わりますが、続く4パート、ベース、3パートときれいな音が出ていたので演奏者の皆さんもきっと同じように感じていたのではないかと思います。また、練習の中でも後半のインターナショナルは参加者が歌えるように編曲されていると説明がありましたけれど、演奏に合わせて歌う会場の皆さんの歌も聴きながら気持ちよく演奏することができたのも参加しての喜びでした。

演奏が終わり、荷物置き場に帰ったところでは演奏し終えてほっとしていたこともあったと思うけれど、みなさんの笑顔が印象に残っています。また、楽器を片付けながら、指揮をされた柴崎和圭氏から「本番はみんないい顔で弾いていた、会場の人結構歌っていた。練習したアフタクトもきれいだったし皆さん本番に強いとコメントをいただき、このグループはここで1回解散しちゃうけど地元でもこの輪をつなげていって欲しい。やりたい曲はジャズもあればクラシックもあればタンゴもあるし、いっぱいあるのでまた次の機会に皆さんとお会いできたらうれしい」と挨拶がありました。また、組織副委員長の一員として運営に関わられた音楽センターの山田千賀子さんから「音もすごくよく聞こえたと、大型ビジョンに映る演奏者の顔が皆さんとてもよい表情でした」と一言感想をいただきました。

最後に皆さんで記念写に真を撮り、解散後は都合の付く方は指定された席でそれぞれ後半のステージを観賞しました。

私たちの合同合奏の他に、中央合唱団OBの合唱では松永勇次とそのアコ仲間たち、他のステージでも伴奏に加わって活躍しているアコーディオン奏者を幾人か見ました。

参考資料

■日本のうたごえ祭典に参加した「アコーディオン合同合奏」の歴史（関東アコ25周年記念誌より）

- ・1987年 「管弦楽のためのラブソディー」
指揮:松永勇次
埼玉県立上尾運動公園体育館
- ・1988年 「フィンランディア」
指揮:木下そんき 東京・日本武道館
- ・1989年 「コンドルは飛んで行く・花祭り」
指揮:吉田親家 京都府立体育館
- ・1990年 神戸・ワールド記念ホール
「ボギー大佐」指揮:吉田親家
「ムーンライトセレナーデ」指揮:清村杜夫
- ・1992年 「ペルシャの市場にて」
指揮:清村杜夫 横浜アリーナ
- ・1993年 「秩父三抄」
指揮:松永勇次 千葉・ポートアリーナ
- ・1995年 「八木節・原爆許すまじ」
指揮:吉田親家 広島サンプラザ
- ・1996年 「トホランピの夜・コンドルは飛んでいく」 指揮:川口裕志
岩手県民会館大ホール
- ・1998年 「ウェストサイドストーリーより」
指揮:吉田親家 大阪ドーム
「チャーリーたちのラブソディー」
指揮:松永勇次 東京フォーラム
- ・2000年 「花」「明日にかける橋」
指揮:木下そんき 静岡・グランシップ大ホール
- ・2007年 交響曲9番「新世界より」第4楽章～縮小版 指揮:木下そんき
奈良市中央体育館
- ・2008年 「ストライク・アップ・ザ・バンド」
指揮:松永勇次 東京・日比谷公会堂
- ・2011年「フランクシナトラ in コンチェルト」
指揮:柴崎和圭 千葉ポートアリーナ

（文責：乙津）

♪「音楽センターアコーディオン科三多摩教室・第9回ぬくもりコンサート」ぶらり訪問記♪

2018年12月24日(月・振替休日)13:30 開演 国立市民芸術小ホール内スタジオ

当日はクリスマスイブでしたが、好天に恵まれ日中は暖かく出かけるにはありがたい1日でした。

2年に1度の開催を守り続けてきて今回が第9回ということです。ホールには緞帳のような幕はなく、客席が180度より広く、ステージを囲む70名ほどのこじんまりした小ホールだけれども、客席がすり鉢型の階段状になっているのでとても聴きやすく感じの良いホールです。

プログラムは、途中休憩を挟んで前半、後半に分け、前半は教室生全員(9名)による合奏「サウンド・オブ・ミュージック」で始まりました。ここで、「教室の指導・指揮をされている川口裕志先生が12月に入り体調を崩され、今日は森陽介氏(音楽センター講師)が指揮をされます」と司会より紹介がありました。

次に独奏が4人続き重奏が1つ入って、また独奏が2人最後に合奏3曲のくみあわせです。

さて、独奏の最初は「カチューシャ」前奏、途中のヴァリエーション、後奏としっかりした川口先生の編曲で聴かせていました。2番手は、やさしいメロディーを奏でられるように演奏したいとコメントがあり「花はどこへ行った」をゆったりと演奏。次は、軽快なポルカのリズムを出すのが難しかった、楽しい踊りの雰囲気伝わればいいなと「カレルフィンスカヤポルカ」を演奏。次は大好きな曲なので楽しく演奏しますとのコメントで魔女の宅急便より「風の丘」を演奏、きれいな演奏でした。

ここで重奏が入ります。日頃から“なお&とも”で練習しているだけあって息の合った演奏で曲は「元気になれそう」でした。再度独奏に戻り、ワルツやシャンソンを弾きたいと思いアコーディオンを始めたとのコメントで「サンライズ・サンセット」を演奏。前半最後の独奏は“できなかった曲ができるようになったら”と取り組んで7年目になるとのコメントで「踊りあかそう」を演奏。

最後は、チャップリン作曲の「ラ・ビオラテラ」「ティティナ」「エターナリー」3曲をメドレーで演奏。一緒に聴きに行った仲間と帰り道おしゃべりした中で、チームワークの良い三多摩教室らしく聴

きごたえを感じた演奏だったと共通した感想でした。

休憩は15分程度あり、ロビーに用意された飲み物やお菓子をいただきながらお客どうしや演奏者とのコミュニケーションタイムとなっていました。



後半は、プログラムに挟み込まれた歌詞カードにある「北国の春」と「きよしこの夜」の2曲と一緒に歌う「みんなで歌おう」で始まりました。

歌の後は「ゴンドラの唄」の三重奏から始まり、歌詞の中に“恋せよ乙女”とあるけれども、私たちは“恋せよもと乙女”で、いくつになっても恋をしますとのコメントで会場の笑いを誘っていました。

続いては独奏で「主よ人の望みの喜びよ」東北の青空とそこに暮らす人々を思い出しながら弾いてみたいとのコメントでした。次は二重奏で曲は「チロルのアコーディオン弾き」初めての組み合わせですが息のあった演奏でした。次は四重奏で二曲 1曲目は「ウラルのぐみの木」2曲目は「恋心」4つのパートが織りなすハーモニーはやはり独奏にはない素敵な世界を感じさせます。

この後「ゲスト演奏」山田千賀子さんの歌に森陽介氏の伴奏で「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」と「宵待ち草」を演奏。

続く独奏で、1人は映画「道」より「ラ・ストラダ」、二人目は「チャルダッシュ」を演奏。

エンディングは、ポップスアレンジによる「歓喜の歌」で、歌える人は歌を入れての演奏で素敵なクリスマスコンサートになりました。ゲストと指揮者に花束が贈られ、アンコールの声に前半最後で演奏した映画モダンタイムズより「ティティナ」の再演を聴き、2年後を楽しみに帰途につきました。(写真は北村きよ江さんより提供頂きました) (記:乙津)